

1. 編集の基本方針

農業農村工学会誌企画・編集委員会（以下、「編集委員会」という）は、学会誌ができるだけ多くの会員に読まれ役立つものであるとともに、親しみやすいものであるよう心がけています。編集に当たっては、学会誌が農業農村工学関係者としての幅広い知識・教養を身につけ、また情報収集・意見交換を行う場として、さらに会員同士の連帯感を深める機関誌として役立つことを重視しています。そのため、報文・レポート等は、関心をもつ読者層が多い共通のテーマを優先し、狭い専門的な研究、難解な表現や内容のものは基本的に好ましくないと考えています。

なお、会員個人の専門的研究成果の発表は、学会誌とは別に農業農村工学会論文集（研究論文、研究報文、研究展望、研究ノート）に門戸が開かれています。

2. 原稿の種類

編集委員会では表-1 に示すような形で、多くの会員のニーズに対応できるように多様な掲載区分を設けております。投稿者は、これらの区分のいずれかを指定して投稿してください。多くの会員の方々からの投稿を歓迎します。なお、いずれの区分にも入りにくい種類の投稿原稿については、編集委員会で改めて検討し、取り扱いを決めます。

また原稿には、

- ① 編集委員会から依頼する原稿（依頼原稿）
- ② 特集テーマについての公募等による原稿（公募原稿）
- ③ 自由に投稿できる原稿（自主投稿原稿）

の3種類の区別があります。

なお、自主投稿による報文・レポートは、編集の都合で小特集等に取り込むことや掲載時期が調整されることがあります。

3. 投稿者の資格

筆頭著者は農業農村工学会名誉会員、正会員、学生会員に限りません。ただし、依頼原稿の場合はこの限りではありません。

4. 投稿原稿の内容および具備すべき条件

投稿原稿は、原則的に未発表のものとし表-1 の各掲載区分の内容および下記の条件に則していることが必要です。

- ① 多くの会員にとって有益であること。
- ② 報告する課題が明示され、それに対する記述が簡潔、明瞭で1編をもって完結していること。
- ③ 論旨がはっきりしていて、内容・表現等に誤りがないこと。
- ④ 極く少数の会員の興味しか引かない、狭い専門的課題に偏っていないこと。
- ⑤ 難解な文章、特殊な用語などが使用されず、多くの会員に想定される知識によって理解できること。
- ⑥ 著しく商業主義に偏っていないこと。
- ⑦ 関連文献の引用が適切であり、これらが広く公表されていること。

ただし、投稿原稿がすでに発表されている場合であっても、次に掲げるいずれかの項目に該当する場

合は投稿を受け付けますので、既発表の内容については、その旨を本文中に明確に記述してください。

- ① 依頼原稿であって、同一著者が、ほぼ同じ内容を他誌に発表（投稿中も含む）している場合でも、本誌掲載のため構成し直したものの。
- ② 個々の内容については既に発表されているが、それを統合することにより価値のある内容となっているもの。
- ③ 限られた読者にしか配布されない刊行物および行政資料等に発表されたもの。

5. 公募原稿の手続き

公募原稿については、まず定められた期日までにA4判、1,500字以内（図表を含む）の要旨を提出してください。これにより特集への採用の可否を編集委員会で判定し、あらためて原稿の執筆依頼をいたします。

6. 原稿の書き方

原稿の書き方については、「原稿執筆の手引き」によります。下記学会ホームページをご参照ください。

<http://www.jsidre.or.jp/journal/>

7. 閲読と掲載の採択について

7.1 投稿原稿の学会誌への掲載の採択は、編集委員会が決定します。

閲読は、投稿原稿が学会誌に掲載される原稿として、ふさわしいものであるかどうかを判定することを目的として行われます。

閲読者は、編集委員会が指名し、依頼します。編集委員会は、閲読結果と本誌編集の趣旨（前項4. および表-1（内容）等）に照らし、表現の修正、加筆、書き換え等をお願いすることがあります。

7.2 指摘事項に対する対応表とともに修正原稿を事務局へ期日以内に返稿してください。

なお、このように修正依頼をした場合、返稿後6カ月以内に再提出がない場合には不採択（小特集報文の場合は返稿期日厳守）とします。

8. 著者校正

受領後3日以内に校正し、原稿とともに返送してください。

9. 掲載された記事の著作権

学会誌に掲載された記事の著作権（著作財産権、copyright）は、（公社）農業農村工学会に帰属します。記事の全体または一部を他の著作物に利用する場合、事前に（公社）農業農村工学会の承諾を得るものとします。

ただし、著者個人、著者が帰属する法人または団体のウェブサイトにおいて、著者が自ら創作した掲載記事を掲載する場合は、下記の2つを条件に該当記事の電子著作物について掲示することを認めます。

- ① 掲載によって生じる結果に対して責任を著者が負うこと。
- ② 掲載記事の著作権（著作財産権、copyright）が（公社）農業農村工学会に帰属することをウェブサイト上に明示すること。

10. 原稿料

依頼原稿については、別に定める基準により原稿料を支払います。

11. 別刷

別刷の贈呈はなく、希望者には有料にて作成いた

します。

12. 原稿の提出先

原稿（電子媒体を原則とする。）の提出先は、（公社）農業農村工学会内「農業農村工学会誌企画・編集委員会」（henshu@jsidre.or.jp）といたします。

表-1 学会誌の掲載区分

	区 分	規定ページ	内 容	備 考	
表紙	表紙写真	1枚	農業農村工学会に関わりがあり、かつ表紙を飾るにふさわしい写真、およびそれに準ずるもの。	公募	
巻頭	目次	4ページ	(1) 小特集予定, 行事予定一覧表, 重要会告 (2) 見開き目次 (3) 英文目次		
	口絵	1, 2, 3ページ	農業農村工学のトピックス, 現場, 海外, その他のカラー写真。	依頼	
	展望	2ページ (2,000字)	斯界のオピニオンリーダーに農業農村工学を語ってもらう。	依頼原稿 (顔写真添付)	
学術・技術レポート	報文	4ページ (8,000字)	農業農村工学に関わる学術, 技術, 事業, 政策, 教育などを対象とし, 多くの会員にとって有益なもので, 技術の開発・改良・適用の事例, 現象の分析・把握, 課題の提起などについて著者の考察, 見解が含まれているもの。	依頼原稿, 公募原稿, 自主投稿原稿 (顔写真, 略歴, 英訳表題, キーワード, 内容紹介添付)	
	レポート	4ページ (8,000字)	学術, 技術, 教育などを総括したもの, 特定のテーマ・技術分野について解説したもの, シンポジウム等で報告された内容をまとめたもの, および, 国際会議・国際交流, 海外事情等の報告。	依頼原稿, 公募原稿, 自主投稿原稿 (顔写真, 略歴, 英訳表題, キーワード, 内容紹介添付)	
	行政の窓	4ページ (8,000字)	政策に関する事項	依頼原稿, 自主投稿原稿 (顔写真, 略歴, 英訳表題, キーワード, 内容紹介添付)	
	技術レポート	2ページ (4,000字)	農業農村工学に関わる現場報告や事例, 技術の工夫, 地域として特色のある工法の紹介および学生のフィールド調査結果など。特に現場技術者にとって有益となる内容のもの。	依頼原稿, 自主投稿原稿 (顔写真, 略歴, 英訳表題, キーワード, 内容紹介添付)	
	講座	4ページ (8,000字)	農業農村工学に直接・間接に関係する学術や技術などについてテーマを定めて体系的に解説する連載講座。	依頼原稿 (顔写真, 略歴, 英訳表題, キーワード, 内容紹介添付)	
	小講座	1ページ (1,800字)	新制度および科学の発展, 技術の開発などによって生じた用語やその他会員にとって有益とみなされる用語の解説。	依頼原稿 (英訳表題, キーワード添付)	
	私のビジョン, エッセイ	3ページ (5,300字)	提言, ビジョン, エッセイなど会員の意見。	依頼原稿, 自主投稿原稿 (顔写真添付)	
コミュニティ・サロン	論文をかたる	2ページ (4,000字)	発表された研究論文の背景などについて著者に語ってもらう。	依頼原稿 (スナップ写真添付)	
	ニュース	1編 (1,200字程度)	「行政機関などが発表した報告・資料」, 「計画・設計・管理に関する基準・指針」, および, 「内外の農業農村工学界の出来事」等のうち学会員に有益と思われるもの。	依頼原稿, 自主投稿原稿	
	オフィス便り	2ページ (4,000字)	職場・現場などの紹介や会員の声。	自主投稿原稿	
	キャンパス便り	2ページ (4,000字)	キャンパスの紹介や学生会員の声。	自主投稿原稿	
	委員会・部会報告	2ページ程度 (4,000字程度)	委員会報告および部会研究集会, 支部講演会の発表報告など。		
	書評	(1,200字)	新刊図書の書評, 紹介など。	依頼原稿	
	受入れ図書		(事務局作成)		
	論文集内容紹介		(事務局作成)		
	PWE内容紹介		(事務局作成)		
	会告		(事務局作成)		
	学会記事		(事務局作成)		
	その他	特別寄稿	2ページ (4,000字)	展望に準ずる内容。	依頼原稿
		特別報告	2ページ (4,000字)	内容はレポートやニュースに準ずる。ただし数編によりまとめたもの。	依頼原稿

※なお, 編集委員会が必要と判断した場合は, 新たに掲載区分を設けることがある。

投稿分野表

1. 水理	2. 水文・気象	3. 土壌物理	4. 土質力学
流体力学一般 開水路流 管水路流 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 浸透流・地下水流 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質・物質輸送 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 計算水理学	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質水文 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料施工	7. 灌漑排水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 個体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリ 地下水保全・地下水汚染
9. 農村計画	10. 環境	11. 海外事情・情報処理・その他	
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域	環境保全 環境影響評価 水質 大気 土壌 生態系 緑地 親水 ビオトープ 農地環境・景観 地下環境 砂漠化 地球環境	水産土木 測量 リモートセンシング GIS プログラミング手法 エネルギー インターネット 電磁波・光 通信 複雑系 新素材 海外 現場報告 新手法	